

第3章 高齢化・少子化社会と都市

第3章 高齢化・少子化社会と都市

1. 高齢化・少子化が都市構造に及ぼす影響

第1章でみてきたように高齢化・少子化の進展は、経済・産業構造、企業行動等の経済、社会に様々な影響を及ぼすこととなろう。また、第2章でみてきたように、高齢化・少子化の進展は全国一様ではなく、経済、社会への影響は、地域特性によって異なるものと考えられる。本章では特に東京圏に注目し、高齢化・少子化の進展が東京の都市構造に及ぼす影響を分析する。そして、それを踏まえた上で、今後の大都市圏政策の方向性と課題について検討を行う。

なお、ここでは、特に記載ない限り、東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県からなる南関東1都3県を東京圏とする。

これまで高齢化・少子化の進展が都市構造に与える影響という切り口からの検討はあまり行われていない。したがって、以下のように、どのような考え方があるのかを最初に整理してみた。

① 少子化による人口減少

厚生省人口問題研究所など複数の研究機関で将来推計が行われており多少の違いはあるが、合計特殊出生率の低下を背景に、総人口は概ね2010年前後をピークに減少に転じるものと予測されている。このため、長期的には、各種都市基盤、交通基盤、公共施設などの需要の伸び率低下あるいは減少が進むものと考えられる。

② 国内人口移動の減少と大都市地域への影響

同研究所による年齢別人口の地域別推計¹⁾では、少子化は人口移動の減少をもたらすひとつの要因とされており、さらに、人口移動の減少は、当該地域人口の高齢化と密接な関係にあることが知られている。同推計では、2010年の時点で人口移動が全くないと仮定した場合、人口移動率が低下すると仮定した場合に比べて、北関東、南関東、東海、東近畿などの大都市地域では高齢者人口割合が増加する。逆に、その他の地域では人口移動が高齢化を進めるという推計結果が示されている。つまり、人口移動が限りなく減少していった場合、東京圏のような大都市圏では高齢化

が一層進むこととなる。

③ 経済成長率の低下と土地需給の緩和

日本経済は長期的には高齢化・少子化の影響を受けて成長減速の途上にある。高齢化・少子化は供給面に対しては労働力人口の伸び率低下^(注1)、貯蓄率の低下による資本蓄積速度の低下という影響を及ぼし、需要面では人口増加率の低下を通じて需要の伸びの低下をもたらすこととなる。この結果、経済成長率は低下し、生産の縮小を通じて土地・施設需要が減少することが考えられる。

④ 高齢者のみ世帯の増加

高齢者のみの世帯数は、第1章の表1-2-5でみたように、1990年に658万世帯であったものが2010年には1,479万世帯と20年間に821万世帯増加するものと予測されている。このため、健常者ではなく、高齢者の生活行動を基本においた都市整備のあり方を考えていく必要性を示している。

⑤ 相続を通じて増加する土地供給・土地利用の変化

長寿化が進むといっても長期的には高齢者が急増することから死亡率も上昇し、相続の発生件数は徐々に増加していくものと考えられる。特に土地の相続が増加することによって、地域的にみた場合、土地需給、土地利用形態に大きな変化が生じる可能性がある。

⑥ 高齢化・少子化、高度情報化と雇用形態の変化

高度情報化は通勤移動などによる都市構造に様々な形で影響することが考えられる。日本サテライトオフィス協会が国土庁大都市圏整備局とともに実施したアンケート調査では、1995年2月時点で週1回以上テレワークを実施しているホワイトカラー正社員は全国6大都市で約40万人（ホワイトカラー正社員約2,000万人の2%）いるとの結果が得られている^(注2)。NTT、IBM、富士ゼロックスなどで

注1) (社)日本経済研究センター「2020年の日本経済」1995年では、女性の社会進出の増加を想定した上で、将来の労働力人口および年間総実労働時間は減少するとの推計結果を提示している。

注2) 全国6大都市に所在する3,090社に勤務する正社員約9,600人が対象。回収企業数は469社。

は自宅勤務を含めたテレワークが推進されている。今後、高度情報化を背景にこのような就業形態が一般企業にも徐々に定着していけば、女性や高齢者等を中心に、自宅勤務やサテライトオフィス等での就業が促進され、大都市圏における都心部への通勤構造が徐々に変化していく可能性がある。

以上のように、高齢化・少子化は経済・産業構造の変化、企業行動、高度情報化などとも結びついて、経済、社会に様々な影響を及ぼすと考えられる。

以下では、これらの様々な影響を念頭に置きながら、特に高齢者人口の移動と分布、相続による土地利用変化が都市構造に与える影響を中心に分析した上で、高齢化・少子化社会における都市政策の基本的な方向性を考えていくこととする。